

# 共生(ともいき)の精神を学生に,社会に広めたい

東海学園大学 学長  
袖山 榮眞



そでやま・えいしん氏

1960年 浄土宗長野教区長野組 十念寺住職  
1960年 東京大学大学院人文科学研究科英語英文学専攻修士課程修了  
1963年 信州大学工学部専任講師  
1966年 東京都立大学専任講師  
1967年 東京都立大学助教授  
1986年 東京都立大学教授  
1989年 浄土宗長野教区教区長  
1995年 浄土宗教学局長  
1999年 浄土宗東京事務所長(2003年10月より文化局長)  
2004年 浄土宗開教振興協合理事長  
2008年 浄土宗開教振興協合理事長再任(現職)  
2008年 財団法人浄土宗報恩明照会理事長(現職)  
2009年 東海学園大学学長に就任 現在に至る

東海学園大学は120余年の伝統と8万人を超える同窓生を誇る東海学園の一員です。

東海学園は浄土宗の僧侶養成のために明治21(1888)年に設立された「浄土宗学愛知支校」が前身です。明治42(1909)年に一般教育機関である「私立東海中学校」となり、終戦後、「私立東海中学校・東海高等学校」として新たなスタートを切りました。その後、昭和37(1962)年には、「東海女子高等学校(現:東海学園高等学校)」を設立し、高等教育機関としては昭和39(1964)年に東海学園女子短期大学を、そして平成7(1995)年に東海学園大学を開学しました。

本学園は「共生(ともいき)」という理念にもとづく教育を長年にわたって実践しています。効率や市場原理がもてはやされ、人々のエゴすらまかり通っていた観のある時代には、そうしたムードに疑問を感じつつも、共生という自らの理念を推進してきました。

ところが、時代は変わりました。いまやこの言葉は流行り言葉ようになって世の中に広まり、様々な場所や場面で目にすることが多くなりました。すばらしいことだと思いますが、私どもの「共生(ともいき)」には一般的に考えられているものとは少し異なる視点があります。人は誰もが自然の恵みのなかで生かされ、人と人の助け合いのなかで生きています。さらには、家族や先祖、未来の子どもたちといった時代を超えた「縦のつながり」のなかで生きていくととらえることも重要だと考えています。そういうメッセージをはっきり打ち出すために、私たちはかねてより「きょうせい」ではなく、「ともいき」と発音しているのです。

## 理念と実地から,建学の理念を学ぶ

着任して日の浅い私の眼には、この理念はある程度学生たちに浸透しているように映ります。本学のキャンパスはゴミが非常に少なく、また、あいさつをする

学生が非常に多い。こうしたことは大学として珍しいのではないのでしょうか。良き伝統を感じさせる光景だと思っています。

大学としても、学生に理念を理解してもらうための努力を惜しんでいません。本学は「共生人間論」という科目を全学部共通で開講しています。浄土宗の教義のなかの「共生」を現代的に解釈する座学を行ったり、その後、経営学部は老人保健施設や障害者福祉施設などで実習を行っています。理屈を聞いて終わりではなく、理論を知ったうえで人々と接すると学生たちの人を見る目は変わり、顔つきもおだやかになります。

「共生人間論」だけでなく、大学教育全体に理念は息づいているといえます。本学は経営学部、人文学部、人間健康学部の3学部体制ですが、人文学部と人間健康学部は言うに及ばず、経営学部においても共生の思想が取り入れられています。「人間経営学」という主旨で、人間教育を主眼に置いた教育・研究をかねてより行っており、この分野は現在脚光を浴びています。このように共生という考え方を教育や研究で具体的に展開している大学として本学が認知され、そこに魅力を感じた高校生が入学してくれるようになることを私は大いに期待しております。

## 「学士力」によるカリキュラムの見直しを検討

本学はこれまで学部学科の点検・リニューアルをタイムリーに行ってきました。とりわけコース設定については、時代ニーズに即して設置してきたことで、豊富なラインナップが実現したと思っています。それにより各学部の独自性、独立性が強まったことは良かったのですが、一方で問題も生じてきました。

ひとつは、カリキュラムが肥大化しすぎたきらいがあるということです。それに費やす資源を現状では個々の学部がまかなっていませんが、工夫をすれば一本

化も可能でしょう。そのような整理・統合といった視点も今後は必要になってくるでしょう。

また、これまで学部の独自性が強かったために、基本的な教育課程について、教育体系として一本化されることが課題となっています。また社会的にも大学教育における質の保証が求められるなか、本学としても念頭に置かないわけにはいきません。具体的には、今後は「学士力」の定義に沿って基本的なカリキュラムの見直しを進めていく予定です。

大学の運営計画については、中期計画の検討をスタートしました。これほど変化の激しい時代に、はるか未来を見据えた長期計画を策定することは無意味かもしれませんが、5~10年といったスパンの中期計画は必要だと考えます。ただし、計画するのであれば絵に描いた餅では意味がありません。具体的かつ実現の可能性のある計画にしなければなりません。そのために総合企画会議というものを立ち上げて検討を進めており、年内にはそのプランを作成できる見通しです。

本学園にはOB・OGによる一大ネットワークがあります。その支援体制ときめ細やかな就職指導により、本学は「就職に強い」という評価をいただいています。そうした就職力のみならず、共生という精神をベースにした確かな人間力の涵養の実現に努める大学であり続けたいと考えています。 ■